

# 広報戦略の策定をすすめる考えは！ 資源ごみ回収成果の「見える化」を！

—市議会2月定例会での高橋美博議員の一般質問—

## 袋井市は情報発信力が弱いのでは

総合計画審議会会長西野勝明氏は袋井市の改善したい点に、地味な印象・情報発信力が弱い・国際性が薄い・内発的発展力が弱いと指摘。私も日頃から同様に感じており、今回、新総合計画、総合戦略策定を機に情報発信の抜本的強化を求めた。

問 「広報ふくろい」は昨年 11 月から月 1 回の発行となった。紙面内容の抜本的改善が必要ではないか。

答 4 月 1 日号から内容を一新し、特集やコラムはテーマを深く掘り下げ、紙面のデザインやレイアウトを変更するなどより読みやすく、わかりやすい内容にしていく。お知らせ記事も内容を精査し、伝えるポイントは確保しつつ、文章を簡素化、ページ削減に努める。

問 本市のホームページは魅力に乏しい。リニューアルを予定しているが、そのコンセプトはどうか。

答 ①災害時でも継続して情報発信するためのシステムのクラウド化②動画配信サービスやソーシャル・ネットワーキング・サービスの新たな機能への対応③高齢者や障害者にも配慮したデザインを大きな柱としている。発信する情報の鮮度や内容のわかりやすさが重要なポイントであり、ガイドラインを設けるとともに、職員への周知・実践を進める。

問 ブランド総合研究所が実施した「魅力度ランキング」では本市は全国 787 位と下位にある。浜松市などで実施している都市や地域の売込みを意識した「シティプロモーション」の取り組みが必要ではないか。

答 本市の魅力を国内外に発信し、定住人口や移住人口、交流人口などの増加を促すシティプロモーションは極めて重要と認識している。本市固有の地域資源を活かした「シティセールス」を推進するためフェイスブックやツイッター、ユーチューブなどの新しい機能の特徴を活かした情報発信を行い、交流人口の増加を促すことや、グローバル化も視野に海外でも展開し、海外からの観光客誘致にもつなげていきたい。

問 行政だけの情報発信だけでは効果には限りがある。市民団体との連携協働で情報発信をしたらどうか。

答「可睡齋ひなまつり」では観光協会・可睡齋とともに市長定例記者会でも PR を行い、来場者 3 万人を達成し成功させた。こうした成功体験を踏まえ、「全国メロンサミット」や子育てや地域の情報など、市民団体と協働し、魅力的な情報発信につなげていきたい。

また、文化協会と連携し平成 27 年度から「広報ふくろい映像特派員」制度を設け、動画や写真を広報紙やHPに活用するなど新たな事業にも取り組む。

問 広報戦略を策定するなど、ターゲットを明確にし、それにふさわしい表現・媒体の選択など広報効果を意識した広報の展開が必要ではないか。

答 まずは実践が何よりも重要である。「世界に飛び出せメイドイン袋井推進事業」や「インバウンド観光推進事業」など重点事業について、有識者やマスメディアなどからの意見を参考に、全庁的な広報活動を展開し、事業効果を高めるとともに、ノウハウの蓄積と職員のスキルアップにつなげていきたい。

## 地域課題・地域資源に即した総合戦略を

国は、人口急減・超高齢化という我が国が直面している課題に対し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、地方で住みよい環境を創出するため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、地方に対しても平成 27 年度中に地方版の総合戦略の策定を求めている。

問 予算を計上しているがどのような戦略を策定し、何をしようとしているのか中身が見えない。策定方法は。何を重点に掲げ、予算はどの分野に充当するのか。

答 (仮称) 袋井市まち・ひと・しごと創生会議を組織し、地元の産業界・教育機関・金融機関などの代表者に加え、首都圏で活躍する本市とゆかりのある経済界のメンバーの参画を求めて検討をすすめる。

問 市が策定する戦略は、地域の特性に注目し課題を掘り下げ、他とは違う独創的で差別化できるようなものにならなければ意味がないのではないか。

答 本市固有の地域資源を活かすことはもとより、グローバル化や ICT の活用など、新しい視点を取り入れながら、人口減少をとどめるという目標達成と、更なる本市の成長をめざし様々な方面から検討していく。

## 資源ごみ集団回収は優れた取り組み

袋井市の特色のひとつに「住民力」がある。市民協働の代表的取り組みが資源ごみ回収のステーション方式であり、広報周知を工夫し、市民と成果を共有し取り組みの前進を図るべきと考え、鹿児島県志木市を例に市の取り組みの「見える化」を求めた。

問 袋井市のごみの分別は現在何品目となっているか。

答 可燃ごみ、資源ごみ、埋め立てごみ合わせ 16 種類。

問 ごみ排出量、リサイクル率、所要経費を「見える化」し、取り組みの成果を他市との比較で示せないか。

答 市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 23 年度 646g、24 年度 632g、25 年度 602g、リサイクル率は 23 年度 22.4%、24 年度 20.3%、25 年度 20.4%となっている。平成 23 年度の 1 人当たりのごみ処理費は全国平均 14,100 円、県平均 13,450 円に対し本市は 10,733 円と少ない額で、県内 35 市町で 12 番目に少ない額である。

問 キャッチコピーなどを工夫し、優れた施策として発信できないか。

答 全戸配布予定の「ごみの出し方ガイド」での情報発信と併せて、「エコタウンふくろい」の実現をキャッチコピーとして見える化に努めていきたい。

問 今年度から資源ごみの拠点回収場所が中遠クリーンセンターと袋井清掃に変わったが実績はどうか。

答 4 月から 1 月までの 1 ヶ月あたりの平均利用者数・回収量はクリーンセンター約 1700 人、11.3 t、袋井清掃約 360 人、1.5 t。人数・量とも増加傾向にある。

問 市民の利便を考慮し市北部での実施はできないか。

答 経費増加もあり、当面は現在の 2 箇所を継続とする。障害者差別解消法を取り上げましたが紙面の都合で省略。

## 高橋美博（日本共産党）の市議会ニュース

2015 年 3 月 15 日発行 連絡先 大谷 245、TEL・FAX48-6100

ホームページ <http://www.yoshihiro-takahashi.net>

ブログ「高橋美博の東奔西走」更新中